



令和4年8月分 名古屋港貿易概況（速報）の要旨

令和4年8月分について、輸出額は「自動車」、「自動車の部分品」、「石油及び同製品」などが増加したことから、対前年同月比12.8%の増加となった。また、輸入額は「原粗油」、「液化天然ガス」、「衣類及び同附属品」などが増加したことから、同44.5%の増加となった。

その結果、差引額は4,027億円（同17.6%の減少）となった。

注) 本資料中の「伸率」及び「増加・減少」は、前年同月比による
また、★印は全ての月を通じて過去最高を示す（1979年1月以降のデータを基礎として比較）

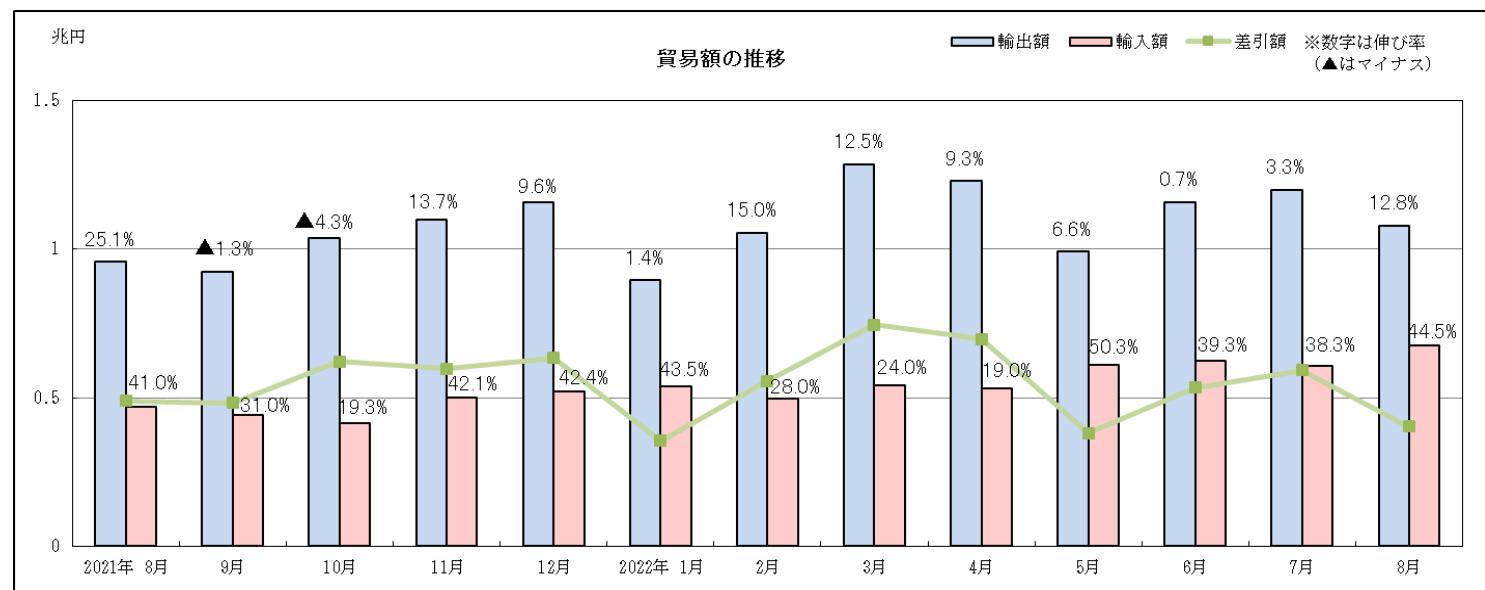
○総額

区分	輸出額	伸率	輸入額	伸率	差引額	伸率
名古屋港	1兆0,787億円	+12.8%	★ 6,760億円	+44.5%	4,027億円	▲17.6%
	10カ月連続の増加		19カ月連続の増加		4カ月連続の減少	
管内（名港シェア）	1兆6,510億円 (65.3%)		1兆3,486億円 (50.1%)		3,024億円 (—)	
全国（名港シェア）	8兆0,619億円 (13.4%)		10兆8,792億円 (6.2%)		▲2兆8,173億円 (—)	

注) 名古屋港における差引額は、平成23年6月以降135カ月（11年3カ月）連続 全国港別（空港を含む）第1位

○主な増減品目

		概況品名	金額	伸率	寄与度	増減
輸出増加	(1)	自動車	2,270億円	+23.8%	+4.6	3カ月ぶりの増加
	(2)	自動車の部分品	1,814億円	+8.3%	+1.5	4カ月ぶりの増加
	(3)	石油及び同製品	★ 125億円	+529.9%	+1.1	4カ月連続の増加
輸入増加	(1)	原粗油	641億円	+91.3%	+6.5	5カ月連続の増加
	(2)	液化天然ガス	533億円	+123.8%	+6.3	14カ月連続の増加
	(3)	衣類及び同附属品	★ 493億円	+71.5%	+4.4	4カ月連続の増加



★名古屋港について・・・

本資料における名古屋港の数値は、輸出入された貨物の貯蔵場所を管轄する次の税関官署を基準に集計しています。

名古屋港の税関官署とは、名古屋税関本関（含岐阜政令派出所）、中部外郵出張所、南部出張所、諏訪出張所（含長野政令派出所）、西部出張所をいいます。